

# 市民と一体となって「人・こと・もの」をつなぎ、 中心市街地のにぎわい創出を目指します。(広島県福山市)

福山市経済環境局経済部商工課 主事 **水野 孝史**



**プロフィール**  
1987年広島県生まれ。大学卒業後、2011年に福山市に入庁。2012年より福山の未来づくりワークショップ事務局を担当。

**Q** 昨年から取り組んでいる「福山の未来づくりワークショップ」はどのような経緯で始まったのでしょうか。

水野：近年、福山市では大型商業施設が撤退するなど、中心市街地を取り巻く環境が大きく変化しています。これまでのまちづくりは商業を中心として進められてきた部分がありますが、そうした商業機能による集客だけでは中心市街地の活性化は難しいという現状を踏まえ、これからは市民の方が自分たちで考え、実行していくまちづくりが重要だという認識が強まってきました。

市は昨年3月に「福山駅周辺地区中心市街地の活性化に関する基本方針」を策定し、現状分析を行うとともに、活性化の方針を示しました。その中で、今後の展開として目指したのが、推進母体の設置とにぎわい創出活動の実施です。推進母体は、「人・こと・もの」の連携を促進し活動のマネジメントを行うものです。市民・NPO・学生・民間事業者・行政などのサポーターを取りまとめた活動を展開していきます。にぎわい創出活動は、市民自らが主体的に企画立案から実施までを行い、市民協働で進めていく活動です。これらを実際に行動に移すため、コミュニティデザインを手がけるstudio-1に協力をお願いし、市民主体のソフトを中心としたまちづくりへの取り組み

を昨年から始めました。

まずは、福山の未来と一緒に考えませんか、まちづくりに興味がある市民を公募しました。集まった市民約60名に加え、若手の行政職員14名が加わり、始まったのが「福山の未来づくりワークショップ」です。

**Q** ワorkshopではどういった活動を行っていますか。

水野：昨年7月に開催した第1回目のワークショップでは、福山の魅力や課題に対する意見を出し合って共有しました。それから回を重ねて、課題解決のためのアイデア出し、フィールドワーク、アイデアを実現するための企画づくりなどを行ってきました。これまでまちづくりのワークショップでは、市民の方は意見を出すだけで、あとは行政側に任せるといった形が多かったのですが、このワークショップでは、アイデアを出すだけでなく自分たちで実行することを前提に市民の方に参加してもらっています。これがプロジェクトの一番大きなポイントと言えます。

アイデアをまとめる段階で、中心市街地にある4つの空間資源（通り、広場、空き店舗、大型施設）に情報発信を加えた5つのチームを形成し、各チームで企画を詰めてきました。これらの企画を実現するため、12月に実施したのが「フクノワ」という社会実験です。

空き店舗チームが実践したのは「まちかどの聞き屋さん」。これは、「自由に人と語れる場がない」という課題の解決策として企画され、空き店舗の中にテーブルとイスを用意し、飲み物などを売りながら、じっくりと話を聞く場をつくりました。多くの方が詰めかけ、昼夜を問わずににぎわいのある場となりました。その他、映

画を観た後に感想を語り合う場を設け、映画にまつわるワークショップを行った「名画の休日」など、さまざまな企画を実施し、来場者は約850人に上りました。

フクノワの大きな特徴は、studio-1への業務委託費用を除き、市は活動費用を負担していないことです。補助金ありきの活動では、それが無くなった時に継続することが難しくなります。そのため、まずは自分たちの力でできる範囲まで実施することにし、費用もメンバーで少しずつお金を出し合って、楽しむために取り組む活動として位置づけてきました。フクノワはイベントではなく社会実験として捉えており、失敗しても、その反省を次に生かすことが大事だと考えています。

**Q** 今後はどのように活動を展開していきたいですか。

水野：今年度の活動に向け、フクノワの各活動をつなぐコーディネーターや、新たに参加してくれるメンバー、遠くからでも協力してくれるサポーターを新たに公募し、約80名が集まりました。今年度は3回のフクノワを予定しています。

理想はこのような活動がフクノワを飛び出して、まちの中で日常的に起こることですが、実際にそれが現実になりました。昨年行った企画「名画の休日」にヒントを得て、メンバーでもあった映画館のオーナーが、1階の空き空間に市民交流スペースと企業活動の情報交換の場となるコワーキングスペースを開設したのです。オーナーは以前からこのアイデアを持っていたそうですが、昨年の企画を経て事業化を決めたと言います。このように、まちの中で一つずつ活動が広がっていくと、もっと面白い取り組みが出てくると思います。フクノワはぜひそういうチャレンジの場に育ってほしいと思います。

インタビュー・構成：  
城市奈那（株式会社ジェイクリエイト）